

東南アジア大陸部の戦争と地域住民の生存戦略

専門分野

東南アジア地域研究
ラオス研究

キーワード

東南アジア ラオス 戦争 地域住民 避難民 女性
少数民族 投降者

研究目的・概要

本研究は、東南アジア大陸部を、「長期にわたる戦争により地域住民の生活が大きな影響を被った社会（＝被戦争社会）」と位置づけながら、この地域の社会変容を再考することを試んでいます。この地域は、インドシナ戦争、ベトナム戦争など、1940年代半ばから1990年代半ばまで約50年にもわたって長期的に戦争が継続し、その中で地域住民は多くの被害を受けました。しかし、本研究では、地域住民を単に犠牲者（＝弱者）と捉えるだけでなく、地域住民（戦争避難民、女性、少数民族、投降者）による戦中・戦後の様々な生存戦略が地域社会の形成に与えた影響を詳細に分析することによって、彼らが戦争を経て地域社会を再建した主役だったことを明らかにしています。



国際学部 国際文化学科
瀬戸 裕之 准教授

担当科目：現代東南アジア論、国際関係論、南北問題

HP

https://www.nuis.ac.jp/teacher_seto/

Researchmap

<https://researchmap.jp/setohiro>